

Digest of Science of Labour

労働の科学

労研創立
100周年
1921→2021

2021
April
Vol. 76, No. 4



特集

東日本大震災から10年—今,考えること

震災と石綿—東日本大震災から10年を経て石綿対策は進んだのか?／外山尚紀

ジェンダー視点で防災・復興の取組みを考える／浅野幸子

東日本大震災緊急対応の実践から備え行く自治体消防／中村義彰

災害の記録を集め・残すことで、命を守る情報を伝えつづける／矢野陽子

先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を発信／東日本大震災津波伝承館を訪ねて

巻頭言

働く人々・働く場の多様化に
関する研究に期待

漆原 肇

新連載 ILOインド・南アジアこぼればなし①
川上 剛

連載 今、チェルノブイリは④
千葉百子

労働の科学

2021
April
Vol. 76 No. 4

巻頭言

俯瞰（ふかん）

創立百年——これからの労研の役割とあり方④

働く人々・働く場の多様化に関する研究に期待

漆原 肇 [日本労働組合総連合会 総合政策推進局 労働法制局長]

1

表紙作品：山本美智代

「太古晴天」

シルクスクリーン（90×63cm）

表紙デザイン：大西文子



東日本大震災から10年—— 今、考えること

震災と石綿

東日本大震災から10年を経て石綿対策は進んだのか？

..... [特定非営利活動法人 東京労働安全衛生センター] 外山 尚紀 4

ジェンダー視点で防災・復興の取組みを考える

..... [減災と男女共同参画研修推進センター] 浅野 幸子 10

東日本大震災緊急対応の実践から備え行く自治体消防

..... [全国消防職員協議会] 中村 義彰 14

災害の記録を集め・残すことで、命を守る情報を伝えつづける

..... [公益社団法人全国市有物件災害共済会] 矢野 陽子 20

東日本大震災津波伝承館「いわてTSUNAMIメモリアル」を訪ねて

先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を発信

..... 編集部 25

Graphic

広がる参加型職場環境改善 4 [見る・活動](123)

..... 仲尾 豊樹 口絵

Series

ILOインド・南アジア こぼればなし (1) インドの家内労働職場から	川上 剛	29
労研アーカイブを読む (67) バーンアウトとワーク・エンゲイジメント	椎名 和仁	33
「#教師のバトン」で伝わる (1) 教職員の過酷な勤務環境	藤川 伸治	38
育みと大原孫三郎 大原孫三郎と清水安三(2)	兼田 麗子	42
漂流者たち クミジョの肖像 (2) クミジョ研究はなぜ存在しないのか(1)	本田 一成	46
凡夫の安全衛生記 (51) 「後押しされて」安全衛生対策予算	福成 雄三	48
今、チェルノブイリは チェルノブイリ原子力発電所周辺視察報告 (4)	千葉 百子	51

Column

BOOKS 『災害女性学をつくる』 ジェンダーと災害復興を考えるための入門書	編集部	50
労働科学のページ		60
次号予定・編集雑記		64

働く人々・働く場の多様化に関する研究に期待

漆原 肇



うるしはら はじめ
日本労働組合総連合会 総合政策推進局
労働法制局長
大原記念労働科学研究所 評議員

労働科学研究所が創立100周年を迎えられたとのこと心よりご祝福申し上げます。この100年という長い年月には、様々な困難もあつたと推察します。事務局を含めその歴史と発展を支えてこられた皆様、研究を支える先生方、役員・評議員の方々、さらにはこれから発展を担っていく各界の皆様、その他関係する様々な方がこれまで果たしてこられた役割と努力に敬意を表したいと思います。

20年以上前ですが、研究所がまだ神奈川県川崎市にあつた折に、連合の労働安全衛生の担当者として何度か研究所を訪問し、意見交換をさせていただいたことがあります。当時も現在と変わらず、研究をされておられる先生方の熱意に感動させられました。

これまでも労働科学研究所は、産業界の健全な発展とともに、働くすべての者の安全と健康や、「ディーセントワーク」を支える学術・技術応用分野におけるニーズを的確にとらえて時宜を得た研究を実施しており、それが現在も続いているのだと思います。

一方で、日本に限らず、社会・労働をめぐる変化のスピードは、加速度的に増していると感じています。今後、多くの

先進国において、増加することが想定される高齢労働者とその労働災害防止の取り組み、また、「曖昧な雇用」のように従来の労働安全衛生法や労災保険法などの枠組みでは対応できない課題へのアプローチや、さらには、IoT、AI、ビッグデータなどデジタルイノベーションの動向を踏まえた労働に関する影響の調査・研究なども重要になるのではないでしょう。

もちろん、センサやITデバイス、AI、ビッグデータを適切に活用すれば、効果的な安全衛生対策を講じることにも可能となるかもしれません。また、労働者の熱ストレスや、身体負荷などを把握しAIなどを活用して分析することで、労働者一人ひとりのデータに基づいた安全衛生対策を講じることにも可能となるでしょう。

そのほか、現場の世代交代も喫緊の課題ですが、高齢労働者が引退する前に、これまで培ってきた様々な産業災害の経験、各種装置を安全に運用するための有形・無形のノウハウなどの技能・知見をデータ化し、そのデータをAI等によって検証・分析しつつ、次の世代に伝承していくことも重要です。

労働科学研究所の中期研究戦略2020-2024の「1. 働く人々・働く場

の多様化に関する研究」の中に、「多様な背景を持つ人々が働く現場の課題と対策、IoTやAI等の新しい技術の導入・活用に関わる問題の評価と改善に取り組みます。」と記載されていることを心強く感じています。

労働科学研究所による有用な研究を通じて、新技術を活用するための基礎データづくりや、問題解決のための方法とツールの開発・提供などを含め、安全・安心で、豊かな労働生活づくりに貢献していただけるものと思っています。

次の100年へ向けても、これまでの伝統・研究成果を大切にしつつ、さらなる労働安全衛生・産業保健の要として発展していけることを望みます。